［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年 5月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2670200480
法人名	社会福祉法人　健光園
事業所名	十四軒町グループホーム
所在地	〒602-8164　京都市上京区千本通出水下る十四軒町398番地 （電　話）075-801-1563

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと・まち交流館　京都1階		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】（平成21年2月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　3　月　31　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤11 人（兼務2人），非常勤5 人，常勤換算12.2人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建て の　2 階～　3 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	58,000　円	その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）	○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（30万円） 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1500　円		

（4）利用者の概要（　2　月　28　日現在）

利用者人数		18 名	男性　4 名	女性	14 名
要介護1		2　名	要介護2	0	名
要介護3		11　名	要介護4	3	名
要介護5		2　名	要支援2	0	名
年齢	平均	86.8 歳	最低　77　歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人西陣健康会　堀川病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市上京区西陣地域の最も京都らしい住宅街に新設され、満4年が経過したグループホームである。新築であるが、純和風に建てられており、1階がデイサービス、グループホームは2階と3階で,ある。開設以来地域住民との交流は盛んで、地域から信頼されている事業所である。日常的に地域の高齢者や子どもたちが訪れている。家族も面会が多く、協力的である。昨年秋に着任した女性管理者はやわらかい人柄で、利用者のことも職員のことも深く理解していると、信頼が厚い。職員は法人の研修等により、力をもった人が多く、自分の考えを述べることができ、利用者についても語ることができる。利用者は互いに世話をやいたり、話を聞いたりし、落ち着いた生活をしている。①地域との連携、②家族への毎月のおたより、③毎日気軽に出かけることができる外出、④すでに3例の実施をみたターミナルケアの優れた取り組み、以上の4点はこのグループホームの特長である。課題は昼食をグループホームでつくっていない点である。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

昨年の評価で指摘された点として、献立のカロリー値や栄養バランスの点検を栄養士にしてもらっていること、カンファレンス会議や事故の分析を記録に残すこと、職員研修の充実、センター方式により利用者の生活歴等々の情報収集などが改善されている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は職員全員が書いて、まとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

要綱を作成し、メンバーには委嘱状を出している。利用者、家族、自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは種々の報告を行い、活発な意見交換が行われている。AEDの講習会の希望、災害時のために水を備蓄してほしい、乾パンなどの備蓄が必要、自治会消防団の倉庫として使わせてほしいなど、意見により対応している。食事の試食もしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

部屋の温度調節、職員の申し送りの不十分、料理をさせてほしい、職員の顔と名前が一致しないので不安を感じる等々の意見が寄せられており、対応している。申し送りについては利用者の情報を必ず記録に残し、見た後サインをするシステムにしている。家族を行事に招待し、家族同士の交流を図ることが期待される。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

十四軒町の家そのものが地域のなかに根付き、地域の人から信頼され、親しまれている。地蔵盆や餅つきなどには地域住民が大勢参加し、手伝ってくれる。防災訓練も住民が見守り、誘導、利用者を抱えておろすなどの役割を担ってくれる。広報誌は町内会の回覧になっている。地域のスポーツ大会に職員が参加し、利用者が応援に出かけている。地域の区民運動会には利用者が参加している。ふだんから子どもからお年寄りまで、来訪してくれる。

社団法人京都ボランティア協会2008

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員みんなで決めた理念「大切な人にこの場所を……」があり、ホーム内に掲げている。パンフレットや契約書等には明記されていない。現在隣接地に新たな事業所の立ち上げが進行しており、完成後にグループホームとしての理念を改めて職員みんなで考えたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「大切な人」すなわち利用者のことを深く知ることに力を入れている人や利用者の話を聞くだけでは十分ではないとして、どのように対応するかに心を砕いている人、忙しいなかでつい「待ってね」という言葉が出そうになるのを1拍おいて考えることを自分に課している人など、職員は理念についてそれぞれ自分なりの考え方をもっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「十四軒町の家」が地域のなかに根付き、地域の人から信頼され、親しまれている。地蔵盆や餅つきなどには地域住民が大勢参加し、手伝ってくれる。防災訓練も住民が見守り、誘導、利用者を抱えておろすなどの役割を担ってくれる。広報誌は町内会の回覧になっている。地域のスポーツ大会に職員が参加し、利用者が応援したり、地域の区民運動会には利用者が参加している。ふだんから子どもからお年寄りまで来訪してくる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員が書いてまとめている。昨年の評価で指摘された点として、献立のカロリー値や栄養バランスの点検を栄養士にしてもらうこと、カンファレンス会議や事故の分析を記録に残すこと、職員研修の充実、センター方式により利用者の生活歴等々の情報収集などが改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱を作成し、メンバーには委嘱状を出している。利用者、家族、自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは種々の報告を行い、活発な意見交換が行われている。AEDの講習会の希望、災害時のために水を備蓄してほしい、乾パンなどの備蓄が必要、自治会消防団の倉庫として使わせてほしいなど、意見により対応している。食事の試食もしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	上京区事業者連絡会に参加し、情報交換している。仁和地域包括支援センターと連携を図っており、認知症サポーター研修講座の講師として、地域貢献している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日来る人から半年に1回の人もあるが家族の面会は多く、その際に情報交換している。十四軒町の広報誌『十四軒町の家だより』は年4回発行され、家族や地域に配布されている。家族へは毎月利用者の様子を職員がこまごまと書いて、写真をつけて送付しており、喜ばれている。利用者の帰宅願望について、家族支援の必要性について痛感している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	部屋の温度調節、職員の申し送りの不十分、料理をさせてほしい、職員の顔と名前が一致しないので不安を感じる等々の意見が寄せられており、対応している。申し送りについては利用者の情報を必ず記録に残し、見た後サインをするシステムにしている。家族を行事に招待し、家族同士の交流を図ることが期待される。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は利用者と職員の馴染みの関係が重要だとの認識はしているが、異動についての方針の明記はない。人と能力を勘案しての異動はありうる。安易な退職を防ぐためには働きやすい職場にするという方針で、シフトの配慮や夜勤の免除などをしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として全体研修年3回、現任研修年6回、新人研修6回が計画されており、受講希望により、受講されている。緊急対応、感染症、認知症ケア、法令遵守、高齢者虐待、身体拘束、成年後見制度等々が企画されている。レポートが残され、伝達研修も実施されている。外部研修の受講希望にも応じている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市老協グループホーム部会の勉強会で交流している。近くのグループホームで実施された認知症専門医の研修会に参加しており、その後で、そのグループホームとの交流をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は利用の前に家族とともに見学にきて、ゆっくり過ごして帰る人や家族とともに泊まった人もいる。利用開始後、早く馴染んでもらうために、家族に始終来訪してもらったり、それまでしていたように夕方になると家族から電話をかけてもらったりして、生活の継続を目指すとともに、家族との関係を大切にしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
15	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者をはじめ職員は利用者を介護される人という見方をせず、長い人生経験のある人として接している。利用者は職員が思っている以上にいろんなことをよくわかっていることや穏やかな人は他人に一生気を遣ってきた人だとか、毎日学ぶことが多い。		
Ⅲ。その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントに挑戦し、利用者全員16シートを記録している。利用者の生活歴や趣味・嗜好などが記録に残されている。利用開始時にはわからなかったことも、日常業務のなかで聞いたことはメモに残し、カンファレンス会議で検討し、記録に残し、情報を豊かにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族には管理者と相談員が訪問面接し、フェイスシート、訪問看護サマリー、生活嗜好調査表等々の情報を収集し、センター方式によるアセスメントを実施している。入居されると、利用者や家族の意向をもとに管理者、ケアマネジャー、相談員等が検討して仮の介護計画を立て、職員が見ている。	○	利用者や家族は望む生活像について明確に表明することはなかなか難しいので、センター方式で実施されたアセスメントの情報を十分反映した介護計画にすることとともに、介護計画は個別具体的で、生きがいのある生活になるようなプラス志向のものにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿って介護を実施したかどうかは、毎日のチェック表がある。利用者一人ひとりの毎日のケア記録は介護計画の項目にそって記録されていない。また職員の観察が書かれていない。モニタリングは毎月実施されており、介護計画の項目に沿って記録に残されている。カンファレンス会議は毎日必要な利用者について実施しているが、意見の内容は記録になく、結論のみが書かれている。	○	利用者のケア記録は、介護計画の項目にしたがって、実施した場合の観察、実施できなかった場合のその理由など、職員の観察と考察を書くことが望まれる。それがモニタリングの根拠となるものである。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のお気に入りの理容店や美容店には、行きたいという希望が出れば同行している。行事はデイサービスで行われており、グループホームの利用者も共に楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へは家族にお願いしているが、事情によっては受診に同行している。グループホームで把握している情報をサマリー等で医師に提供し、医師からの情報も得ている。内科医は隔週に往診してくれており、訪問看護は毎週検診してくれている。歯科医は毎年定期健診してくれる。認知症専門医との連携がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「十四軒町グループホーム看取り介護に関する指針」が備えられ、契約時に利用者や家族に説明し、意向くを確認している。最期までグループホームで看てほしいという人が多い。すでに3例を経験しており、職員は医療行為などに不安を感じながらも、最期まで一緒に過ごせたことが良かったと前向きにとらえている。職員研修は看護師から受けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の戸は鍵をかけることができ、かける人もいる。トイレの戸も中から鍵をかける人がいる。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はおおよそ決まっているが、起床時間、就寝時間等、利用者の自由である。朝食は7時くらいに食べる人が多いが、10時くらいの人もいる。夜も遅くまで起きている人がいる。		

社団法人京都ボランティア協会2008

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と夕食の献立は時々臨機応変に決め、食材の買い物に利用者とともに出かける。野菜を切る、食器を洗う、洗ったものを拭く等の役割を利用者は分担している。ちゃんこ鍋やお好み焼きなども楽しんでいる。外食にも希望を聞き、出かけている。昼食は業者から配達されてきたものを、盛り付けている。昼食もホームでつくることが期待される。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭風呂よりも少し大きめの浴槽であるが、手すりが完備している。時間帯は利用者の希望に添っており、午後が多いが、夕食後に入る人もいる。毎日入りたい希望があれば支援している。マンツーマンで同性介助である。ゆず湯やしょうぶ湯は利用者の楽しみである。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除、洗濯物たたみ、食材買い物、調理の下ごしらえ、夕刊を取り込む等の家事の役割を果たしている。行事などの際のあいさつ係りの人もいる。編み物、縫い物、書道、塗り絵、パズル等を楽しんでいる。デイサービスの部屋で行われたフラダンスのコンサートや地蔵盆はグループホームの利用者も共に楽しんでいる。大文字の送り火は毎年近くの屋上に出かける。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鯉のいる池のあるお寺、子どもたちがいる公園等への散歩、近くの馴染みの和菓子屋さん、馴染みの床屋さんなどに行き、店の人との会話を楽しむ等、利用者は毎日のように出かけている。花見、今宮祭り、祇園祭り、時代祭り、ずいき祭りなどの見物、花見、紅葉狩り、初詣、節分詣等々、季節ごとにお出かけをしている。自分の家に帰りたいという利用者には車椅子をおしたり、タクシーを使ったりして、同行しており、近所の人に会い、久しぶりの会話を楽しんでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十四軒町の家の玄関ドア、エレベータードア、グループホームの玄関ドア、非常口等、すべて日中は施錠されていない。グループホームの玄関ドアにチャイムをつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、防火管理者等の設置ができており、消防計画を提出し、食料他の備蓄の準備もある。夜間想定も含めて避難訓練をしており、非常階段のためには担架を供えている。設置されているAEDの講習や救急救命の講習も実施されている。地域との防災協定書などの内容を今後話し合うことが期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量の記録が残されている。毎日の献立は法人の栄養士に点検してもらい、カロリー値の計算と栄養バランスについてのコメントをもらっている。アドバイスは役に立っており、生かしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターを出て格子戸を開けると玄関土間で、下駄箱が置いてあり、上に花を飾っている。左手が浴室でその前に畳コーナーがあり、利用者のお気に入りである。中央に居間、食堂、台所があり、両側に居室が並んでいる。居間は畳敷きだが椅子とテーブルを使っている。テレビの前に大きなソファがある。床の間には額と花を生けている。台所は家庭的な小さなものである。廊下の端に非常口があり、出るとベランダでプランターに花を生けている。外には樹齢何十年の大木が四季折々の風情をみせてくれる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は6畳の広さで、4畳半に畳を敷き、襖や格子戸で和室の設えにし、洗面台とクローゼットが備え付けてある。ベッド使用の人が多いが、ピンクの花柄のふとんを敷いている人もいる。冷蔵庫、タンス、整理箱、衣装かけ、ホームコタツ、籐の椅子、鏡台など、利用者は使い慣れた家具を持ち込んでいる。テレビや電話を入れている人もあり、大きな亡夫の写真を飾り、花を供えている人もいる。自分が描いた水彩画を壁に飾っている。		

社団法人京都ボランティア協会2008